

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	東海市	
施 設 名	東海市芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	12,684	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	7,567	(千円)
普及啓発事業	5,117	(千円)





(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	0歳からのコンサート	2020年1月21日	出演：中井章徳、大久保成美、 名古屋フィルハーモニー交響楽団	目標値	740
		大ホール		実績値	442
2	おんがくさん はじめてコンサート	2019年10月 2、3、4日	出演：安江佐和子、江川智沙穂	目標値	600
		市立6保育園		実績値	568
3	出会いの教室	2019年9月 ～2020年2月	出演：名古屋フィルハーモニー交響 楽団楽員等	目標値	600
		市立12小学校		実績値	1,196
4	劇場招待コンサート	2019年12月10日 2020年1月22日	出演：栗辻聡、中井章徳、大久保成 美、名古屋フィルハーモニー交響楽 団	目標値	2,300
		大ホール		実績値	2,390
5	嚶鳴サロンコンサート	2019年11月10日 2020年1月25日	出演：新井康之、天野初菜、瀬木理 央、金澤みなつ	目標値	360
		嚶鳴広場 (パブリックスペース)		実績値	130
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>東海市芸術劇場が掲げる最も重要な使命（ミッション）は「ひとづくり」である。「ひとづくり」は、本市の財産である市民をさらに心豊かで個性的な人材へと導き、それがまちづくりへとつながり、まちに「にぎわい」をもたらす。そのような気運の中でこそ、より多くの人々が心を開き、文化芸術に関心を向けやすくなり、「生きがい」となるような新しい“こと”や“もの”に出会う可能性が生まれ、これら「ひとづくり」の成果がより高い次元の「文化創造」へとつながっていく。このことから、「ひとづくり」「にぎわいづくり」「生きがいづくり」という三つの柱を理念に掲げ、活力を持った「まち」であり続けられるよう事業を展開し、運営等に取り組んでいる。</p> <p><b>【人材養成事業】</b> 人材養成事業として実施した子どものオーケストラ事業では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月の練習が中止となったが、楽器を所有していない子どもでも参加できるよう楽器を貸し出し、未経験者から経験者まで広く誰でも参加できるようにすることで、子どもたちが早期に文化芸術に触れる環境を整備した。多くの人々と協力して創り上げるオーケストラの活動を通じて、子どもたちの社会性を養う「ひとづくり」や「生きがいづくり」の場として機能した。</p> <p><b>【普及啓発事業】</b> 普及啓発事業として実施した0歳から誰もが入場可能なオーケストラ公演、保育園へのアウトリーチ、市内全小学4年生へのアウトリーチ、市内全小学5年生及び市内全中学2年生への招待コンサート、全ての世代への無料ロビーコンサートでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため予定回数が1回減となったが、事業全体を通じて成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を実施することができた。単発的な事業として終わることなく、長期的・継続的・発展的な事業展開を行うことで、文化芸術活動を通じた「ひとづくり」や「にぎわいづくり」の一助となっている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p><b>【人材養成事業】</b></p> <p>子どもたちが広く誰でも早期に文化芸術に触れる環境、文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくり</p> <p>子どものオーケストラ事業の特色として、①楽器演奏経験のない初心者でも受け入れ、かつ楽器を持っていない子どもに対して楽器の無償貸与を行うことで、誰でも参加ができる点、②ひとづくりパートナーシップ協定を活用し、東海地方を代表するオーケストラである名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員による質の高い指導を受けられる点がある。小中学生を対象とした普及啓発事業などを通じて文化芸術活動に興味関心を持ち、参加したいと思った子どもが、広く誰でも質の高い指導を受けられる環境を整えることで事業間の連動性を持たせている。</p> <p><b>【普及啓発事業】</b></p> <p>事業全体を単発的な事業に終わらせず、長期的・継続的・発展的な事業展開を行う</p> <p>0歳からのコンサート（未就園児親子等）、おんがくさんはじめてコンサート（園児）、出会いの教室（小4）、劇場招待コンサート（小5・中2）、嚶鳴サロンコンサート（全ての世代）と、継続的・発展的な事業展開を行ったことで、オーケストラ公演（0歳からのコンサート含む）入場者の内、子ども（18歳未満）の入場者の割合では対前年比1.4ptの数値向上が見られた。これらの事業を、子どもたちへ長期的に継続して実施することで文化芸術に関する興味関心を育み、実践していく心豊かな市民が育つ土壌の形成につながっている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 【人材養成事業】

##### 目 標

- ・子どもたちが広く誰でも早期に文化芸術に触れる環境、文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくり
- ・子どもたちの社会性を養うひとづくり
- ・心豊かで生きがいのあるまちづくりにつなげる

##### 自己評価

多くの人が協力して一つの音楽を創り上げるオーケストラの活動を通じて、本事業の目的である「ひとづくり」を行うことができた。また、公演アンケートから「子どものオーケストラを地域で応援したいと思う」が96%、その他にも将来を期待する声が多く寄せられ、多くの方に本事業を支持していただけており、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識が醸成されてきている。

#### 【普及啓発事業】

##### 目 標

- ・事業全体を単発的な事業に終わらせず、長期的・継続的・発展的な事業展開を行う
- ・文化芸術に対する興味関心の喚起や「東海市子どものオーケストラ」をはじめとした、文化芸術活動をはじめのきっかけづくりにつなげる
- ・戦略的に持続的な活力を持ったまちづくり・地方創生の実現へとつなげる

##### 自己評価

0歳からのコンサートは、0歳から親子（もしくは3世代）そろってオーケストラに触れる機会、障がい者が鑑賞できる機会、心のバリアフリーコンサートを通して相互に尊重し合い多様性を受け入れることができる社会の土壌を形成する一つの機会とすることができた。

保育園でのアウトリーチ後には、保育園の至る所で打楽器を使い音楽を楽しむ園児たちを目にしただけでなく、「タンバリンの鳴らし方を保育士や家族に披露する子どもがいた」「保育士自身も子どもとの楽器遊びの関わり方の参考になった」等の報告を受け、本事業の目的である音楽・楽器演奏に対する興味づくり、文化芸術活動へ取り組む意欲を高めるきっかけづくりとすることができた。

小学4年生へのアウトリーチ事業は、優れた実演芸術に触れることで、豊かな感性を刺激し、音楽・楽器演奏に対する興味づくりや、文化芸術活動に参加するためのきっかけづくりに結びついている。

劇場招待コンサートでは、来場したほぼ全ての保護者が「今後子どもと一緒に音楽公演を鑑賞したい」「本公演を家庭内のコミュニケーションの話題にしたい」と回答しており、音楽鑑賞体験を共有したことにより、児童・生徒だけでなく家庭における共通の興味づくりにもつながった。

また、市民アンケートから、文化活動が盛んなまちだと思ふ市民の割合が過去最高数値（速報値 65.2%）となり、本事業を含め様々な事業を実施したことで、地域の中核劇場としての市民の評価が向上している。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により市の文化施設を臨時閉館したため、今年度は参考数値ではあるが、市の文化施設で行われる文化・芸術事業への参加者数も増加傾向で推移しており、心豊かな活力ある市民が増え、にぎわい・生きがいのあるまち、地方創生に向けて、着実に進展している。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【人材養成事業】

##### 事業期間

年間を通じた練習は、概ね当初の予定通り進んだ。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に予定していた練習や入団面接、成果発表会は中止とした。

助成を受けることができた結果、今回初めて開催した定期演奏会に向けた強化合宿は、団員である小学生から高校生が参加しやすい夏休み（8月7日～9日）に日程を設定した。

定期演奏会は、市民に向けてのデビュー公演であるお披露目発表会から一年後に設定し、一年間の練習の成果を披露するにあたり、適切な日程であった。入場者数は、想定より子どもの割合が多く、同年代の子どもたちに子どものオーケストラへの関心が広まったことの表れであることが推測できる。

##### 事業費

練習についての事業費は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための練習中止にともない、3月分の講師謝礼、出演料及び旅費等が不用となった。また、合宿における楽器運搬に係る費用も想定を下回ったため、当初の計画より支出額が少なくなった。

#### 【普及啓発事業】

##### 事業期間

助成対象事業全体を通じて成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を実施することで、単発的な事業に終わらせないよう、継続的・長期的・発展的な事業展開を行うために、実施時期等についてきめ細かく小中学校等と調整を行った結果、概ね予定通り実施することができ、適切な事業期間であった。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に予定していた嚶鳴サロンコンサートは中止せざるを得なかった。

##### 事業費

無料や安価な入場料金設定とすることで、気軽に音楽に触れる機会を提供し、家族で文化芸術に親しむ機会を提供した。0歳からのコンサートと劇場招待コンサートを連続した二日間で開催したことで、出演料や楽器運搬に係る必要が想定を下回ったこと及び嚶鳴サロンコンサートの中止にともない、当初の計画より支出額が少なくなった。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【人材養成事業】

東海市子どものオーケストラ事業の特徴としては、下記の3点が挙げられる。

- ・参加を希望する児童・生徒に、楽器を無償貸与し、経験の有無・貧富の差を問わず、誰もが高度な文化芸術活動へチャレンジできる環境を形成している。
- ・ひとつづくりパートナーシップ協定を活用し、東海地方を代表するオーケストラである名古屋フィルハーモニー交響楽団楽員による質の高い指導を行う。
- ・東海市子どものオーケストラ育成基金を設立し、寄附を地域の個人・企業・団体等から受けることでオーケストラの活動の幅を拡大。地域で子どもたちを支える仕組み・環境を整備した（ふるさと納税制度のメニューとしても活用）。

東海市子どものオーケストラ入団応募者のうち、市内在住者が占める割合では、対前年比で12.4pt低下、過去最も低い数値となったが、市内だけでなく市外からの参加者が増加したことで、地域の中核劇場として広域的に影響をもたらしていることが推測される。多くの人々と協力して創り上げるオーケストラの活動を通じて、人材養成事業は子どもたちの社会性・地域性を養い、本市だけでなく近隣市町の未来を創造し、支えていく心豊かなひとつづくり及びまちづくりに大きく貢献していると認識している。

#### 【普及啓発事業】

助成対象事業全体を通じて、成長過程に応じた公演・アウトリーチ事業を実施することで、単発的な事業に終わらせないよう、継続的・長期的・発展的な事業展開を行っている。

助成対象事業の主な特徴は下記のとおりである。

- ・0歳から入場可能なオーケストラ公演を提供することで、本市における音楽鑑賞の対象年齢を下げている。
- ・通常のクラシック公演におけるルールやマナーを気にせず、誰もが鑑賞できる心のバリアフリー公演として、チラシ・プログラム・会場内の掲示物などに記載し、幅広く気軽に鑑賞できる場としている。
- ・多くの未就学児・乳幼児が来場されるため、授乳室・オムツ替え・ベビーカースペースの拡充など、安心して来館・鑑賞できる環境を整備している。
- ・福祉施設・団体と連携し、障がいを理由に普段敬遠しがちな方・家族でも鑑賞しやすい公演とし、車椅子席も拡充して環境を整備している。
- ・市立保育園が18園あるため、年度あたり6園ずつアウトリーチを実施することで、年少・年中・年長の間に漏れなく当該事業を経験することができるように計画している。
- ・小学校へのアウトリーチでは、学校と事前打ち合わせを行い、児童が学習している曲目や校歌等を演奏曲に取り入れ実演家と交流することで、児童の関心をより引き出すよう工夫している。
- ・プロの実演家との交流を行った翌年度に、教室でなくホールで鑑賞する機会を提供し、音楽への興味をより強くさせる。また、オーケストラの醍醐味を体感することで自らの活動意欲をかきたてることにつながる。
- ・園児や児童生徒の保護者も鑑賞できる環境にすることで、親子が音楽体験を共有し、家庭でコミュニケーションを図ることができるよう工夫している。
- ・パブリックスペースで無料のロビーコンサートを実施することで、気軽に音楽に触れる機会を提供し、また、劇場に別用（音楽以外も含む）で来館した利用者にも質の高い音楽鑑賞の機会となり、広く市民へ感動を伝えることにつながっている。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

東海市は、「公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団」及び「吉本興業株式会社」との間に「東海市ひとつづくりパートナーシップ協定」を結び、市と両団体の双方が互いの利点を活かし、連携することで、市民に質の高い文化芸術を鑑賞する機会を提供し、さらには文化芸術活動を通してのひとつづくりや地域活性化に取り組んでいる。

助成対象事業では、名古屋フィルハーモニー交響楽団やその楽員が出演することにより、質の高い文化芸術事業を展開し、もって東海市が目標とする「文化芸術を愛し、心輝く市民が育つまち」を基本理念としたひとつづくり、まちづくりの推進につなげている。

### 【人材養成事業】

東海市子どものオーケストラ事業は、若い世代が文化芸術活動に継続的に取り組むことができる場づくりが課題であり、次代の文化芸術を担う人材育成のニーズが高いことから、子どもたち自らが主体となり文化芸術活動に取り組める場としてのオーケストラを育成することで、次代の文化芸術を担い、本市の未来を担うひとつづくりを目的として実施している。また、多くの人々が協力して創りあげるオーケストラの活動を通じて、子どもたちの社会性を養うひとつづくりを行うことで心豊かで生きがいのあるまちづくりの推進につなげている。

東海市子どものオーケストラ第1回定期演奏会の来場者アンケートからは、「子どものオーケストラを地域で応援したいと思う」が96%、その他にも将来を期待する声が多く寄せられ、多くの方に本事業を支持していただけており、心豊かで生きがいのあるまちづくりに向けて、地域全体で取り組む意識が醸成されてきている。地域の中核劇場として様々な事業を実施したことで、市民の評価が向上しており、地域の文化芸術の発展につながっていたと認められる。

### 【普及啓発事業】

本市には、官民ともにオーケストラ団体がない環境であったため、オーケストラ鑑賞に親しむ市民が少なく、さらに0歳から親子（もしくは3世代）そろってオーケストラに触れる機会・障がい者が鑑賞できる機会がほとんど無かったことから、心のバリアフリーコンサートとして、0歳から入場可能なオーケストラ公演を提供することで、本市における音楽鑑賞の対象年齢を下げることで、家庭に引きこもりがちな子育て世代の外出を促し、誰もが家族で音楽を通じたコミュニケーションが図られ、家庭からまちへ交流が広がることを目的として、事業を実施している。また、本市は、子ども向けの文化芸術に関する鑑賞・体験プログラムの充実が課題であり、次代の文化芸術を担う人材育成のニーズが高いことが示されていることから、早期から質の高い文化芸術に触れる機会を成長に合わせ段階的に設け、本市の子どもたちへの音楽・楽器演奏に対する興味づくりや、様々な文化芸術活動へ取り組む意欲を高めることを目的として実施している。

本事業をはじめ様々な事業を市内各所で幅広く実施したことで、市民アンケートから、文化活動が盛んなまちだと思える市民の割合が過去最高数値（速報値 65.2%）となり、地域の文化芸術の発展につながっていたと認められる。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

下記のとおり、人材面・財政面ともに、持続的に発展することができる組織を構築するための取り組みを行っている。

#### 【運営】

市の直営方式を用いている。目的の明確化、安定的な財源の確保・運営、地域の実情を把握した事業展開、文化芸術の持つ固有の意義と価値を観光、福祉、教育、産業振興等と有機的に連携した事業展開を行うことが可能である。組織、管理運営及びプログラムの企画・推進は、専門性を備え、施設の責任者である館長、芸術総監督が中心になって行う。その上で、運営のさまざまな場面において、市民の意見を吸収しながら、行政と市民が連携・協働・共創し、事業展開を行っている。

#### 【ボランティア組織】

公募により市民スタッフを組織し、レセプションистとしての参加や企画・制作に参加することにより事業運営をサポートしている。市民スタッフが活躍することは、参加する市民にとっての誇りや生きがいを創出するとともに、市民がスタッフとして事業・運営へ参加していることを認識されることで、市民全体にとっても、施設や文化芸術を身近なものとして感じるができるという効果につながっている。

一定期間、運営をサポートし、最終的には、実力を持った組織となった後に自立し、芸術劇場の顔の一つになることを目標としている。

より多くの市民が芸術劇場の事業や運営に参加し、交流や理解へのきっかけづくりができるよう、継続的に活動に参加することが難しい市民でも、気軽に参加できる仕組みや機会を設けている。

#### 【友の会組織】

友の会組織「ユウナルフレンドメンバーズ」があり、会員は年間約1,000名の増加で推移している。

#### 【子どものオーケストラ育成基金】

基金を設立し、寄附を地域の個人、団体、企業等から受けることで、地域全体で子どものオーケストラを応援・支えていく仕組みや環境を整備している（ふるさと納税制度のメニューとしても活用）。

